

◎図書館教育担当者研修会が行われました。(11月21日15時半～16時半)

津南町、十日町市内の小・中学校から、図書担当の先生方33人にお集まり頂きました。今年度の子ども読書推進活動報告をお聞き頂いた後に、班に分かれ、お一人ずつ、推し本を紹介して頂きました。じっくりと聞き入っていらっしゃる先生方のご様子が印象的な、素晴らしい時間でした。その後、ホールで読み聞かせをさせて頂きました。



『ひびわれ壺』(菅原裕子/訳)と『かないくん』(谷川俊太郎/文)を読みました。物音一つしない静けさに包まれた空間でした。「推し本」も「読み聞かせ」も、「自分が体験することで、改めて良さを実感した」「子どもたちが本に親しむためには、教師が本を好きになることが大切だと実感した」などのお声を頂きました。日頃から子ども読書推進の活動にご理解頂き、感謝致します。★先生の「推し本」リストは別に配信いたします。



◎ブックトーク鎧島小3・4年生 テーマ「クリスマス」



街がクリスマスの飾りで彩られてくると、わくわくしますね。クリスマスの飾りにも意味があるのをご存知ですか?クリスマスの緑は、1年中葉が茂る常緑樹の緑で永遠を表し、赤は十字架に磔になったイエス・キリストの血の色で、神の寛大な心や愛を表しているのだそうです。また、クリスマスのリースの輪は永遠を表し、ヒイラギ等の尖った葉をつけるのは魔除けの意味があるのだとか。ツリーの上の星は「ベツレヘムの星」。パレスチナ、エルサレムのことにも少し触れ3つの宗教の聖地であるがゆえに起きている紛争の話もしました。子どもたちは真剣な表情で話を聞いていました。



ツリーを飾り、プレゼントを貰い、ごちそうやケーキを食べる…ではない、元々のクリスマスとは?を考えるきっかけになればと思いました。でも、少し難しかったかな?終わってからそう思っていたところ、先生から子どもたちの感想を頂きました。

驚いたのは、紹介した本の中で読みたいと思った本は?の質問に、多くの子どもたちが『クリスマス』という本当のクリスマスを知ることができる本を選んでいたことです。また、次はどんなテーマが良いか?の質問に多くの子どもたちが「戦争」と答えていました。

「本当のクリスマスのことを知りたいからです。」と力強く書かれた子どもたちの字を見ながら、嬉しい気持ちでいっぱいになりました。子どもたちの瞳がキラキラと輝いていたのがとても印象的でした。

皆さま、すてきなクリスマス、そして良いお年をお迎えください。



★ブックトークで紹介した絵本★ クリスマスにおすすめの美しい絵本です

『クリスマス』バーバラ・クーニー作 安藤紀子訳 ロクリン社(長崎出版)

『神の道化師トミー・デ・パオラ作 ゆあさふみえ訳 ほるぷ出版

『ちいさな曲芸師バーナビー』バーバラ・クーニー作 末盛千枝子訳 現代企画室

『急行北極号』クリス・ヴァン・オールズバーグ作 村上春樹訳 あすなろ書房